

【記念講演】アメリカにおけるピア活動について ～その発展と将来への可能性～

講師: マシュー・フェデュリーチ(コーブランドセンター事務局長/全米ピアスペシャリスト協会理事)

座長: 高橋清久(財団法人 精神・神経科学振興財団)

今回の記念講演には、アメリカよりマシュー・フェデュリーチさんをお迎えして、アメリカにおけるピア活動の歴史や今後の可能性について、マシューさんの経験も交えながらお話しいただきました。

アメリカではピアサポートの有効性がピアの経験や研究等によって認められるようになり、連邦政府もその動きに注目し、活動の発展を促すようさまざまな精神保健に関する報告書において、その活動の有効性を明記しました。また、ピアスペシャリストというピア(当事者)がサービスを提供できる認定資格をつくる動きが、ジョージア州を筆頭に展開されるようになりました。

ピアによる労働力を精神保健システムに組み入れることは、リカバリー志向のサービスシステムへの転換ということを意味しているとマシューさんは強調されていました。しかしながら、これが大きな障壁になっていることも事実であるということにも触れられていました。

マシューさんはその課題を乗り越えるためのヒントも示してくださいましたが、非常に希望を感じられたのは、マシューさん自身が経験されたペンシルバニア州での取り組みに関する報告でした。

ペンシルバニア州ではピアスペシャリストの研修を開始し、わずか4年間で1,800名のピアが研修を修了し、103の機関でピアサポートのサービスを提供できるようになったそうです。また、実際に働いているピアの方々は、仕事をすることでさらなる自信をつけたり、自身のリカバリーにも役立っていると報告しています。

このような体系的な仕組みはまだ日本にはないのが現状ですが、今後このような取り組みが可能なのかということに関するヒントにもなったと思いますし、また、マシューさんのお話を聞いて、こんな風に仕事をしてみたいと思った方もいらっしゃるかと思います。

今回の記念講演をきっかけに、今後皆さんといろいろな可能性を探っていけるのではないかと思います。

最後に、マシューさんのとてもフレンドリーな人柄も印象的でした。参加者の皆さんと舞台上から撮影した記念写真は、マシューさんにとって大切な思い出になったようです。

《久永文恵(NPO法人地域精神保健福祉機構・コンボ ACT-IPS センター)》